

5 小学校高学年用「分かっているのに」 指導例

情報化社会の進展に伴い、インターネットの掲示板や携帯電話などのメールによる「ネットいじめ」が問題となっている。ネットワーク上のコミュニケーションは、匿名性が高く、誹謗中傷の言葉や表現が掲載されやすい。ネットワーク上と社会生活上のコミュニケーションは、異なる特性があることを理解した上で、相手の立場に立った思いやりのある行動がネットワーク上でも必要である。こうした情報モラルに関する指導に生かすことを念頭に、自律的で責任のある行動をとることの大切さについて考える道徳の時間に活用できるよう、本資料を作成している。

展開では、軽い気持ちでノゾミを中傷する書き込みをするマキをとめられないミュキの心の弱さと、母の励ましでその弱さを克服していくミュキの心の動きを中心に話し合うようにしたい。特に、本指導では、インターネットは便利で自由に使えるものであるからこそ、使う上でのマナーや危険性などについて理解し、他者や自分自身に対する責任を果たすことの大切さに気付かせることをねらいとしており、情報モラルに関する指導の機会とするとともに、自由とそれに伴う責任について考えを深め、道徳的判断力や実践意欲を育みたい。

- ◆ **主題名** 弱さを乗り越えて 指導内容 高1－(3)
- 資料名** 分かっているのに (奈良県教育委員会)

◆ ねらい

ノゾミを中傷する書き込みをするマキをとめられないミュキの心の弱さと、母の励ましでその弱さを克服していくミュキの心の動きについて話し合うことを通して、インターネット利用などにおいても、他者や自分自身に対する責任を果たすことの大切さに気付かせ、自律的で責任のある行動をとろうとする意欲を高める。

◆ 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、ブログについて話し合う。	○ ブログを知っていますか。 ・インターネットで書き込める。 ・お家の人もスマホでやっている。	・自由に知っていることを交流し合い、本時の資料への興味・関心を喚起する。	
展 開	2、資料「分かっているのに」を読んで話し合う。	○ 怒っているマキの言葉を聞いて、黙ってうなずいたミュキは、どんなことを思っていたでしょう。 ・そこまで言わなくてもいいのに。 ・マキが怒る気持ちも分かる。	・マキとミュキの言動から二人の性格を読み取るようにし、気の強いマキに思っていることをはっきり言えないミュキの弱さを押さえ	補助 写真

展		<ul style="list-style-type: none"> ・ どうすればいいか分からない。 ○ 何も言えず、じっと画面を見つめながら、ミュキはどんなことを考えていたでしょう。 ・ 書き込みを見たノゾミちゃんは傷付くだろう。 ・ ノゾミちゃんの味方をするわけではないけど、これは間違っている。 ・ ちゃんとマキちゃんを止められなかった自分にも責任はある。 ○ 母の言葉と笑顔から、ミュキは母がどんな思いを自分に伝えようとしていると感じたでしょう。 ・ 正しいことはあなたはちゃんと分かっている。そのことがうれしい。 ・ 自分の弱さに悩んでいるのはあなただけじゃない。頑張る。 ◎ マキの手をつかんで「やっぱりだめだよ」と言ったとき、ミュキはどんなことを思っていたでしょう。 ・ ちゃんと言えたぞ。 ・ 後で何と言われようと、ここで伝えないと今までと変わらない。 ・ お母さんも応援してくれたんだ。言えてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> る。 ・ 一度ブログに書き込んだコメントは消せないことから、ミュキがこの後どうなっていくかということについて思い悩んでいる気持ちを考えられるようにする。 ・ 黙っていられずお母さんに相談するミュキの姿から、ミュキのやさしさや正直さを喜び、心の弱さを受け止めて励まそうとする母の思いを想像させるようにする。 ・ 大きな声が出たことや、手のふるえが止まっていたことから、言えた喜びや満足感に気付かせるようにする。 ・ ワークシートに記入させ、友達と意見交換することで考えを深められるようにする。 	
開	3、自分を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ミュキが果たした責任は、誰に対してのものだと考えますか。 ・ ノゾミに対する友達としての責任。 ・ マキに対する友達としての責任。 ・ 励ましてくれた母に対する責任。 ・ 自分自身に対する責任。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰に対する責任も間違いではなく、自由に考えを交流させるとともに、責任を果たした喜びや満足感があることを押さえ、自律的で責任のある行動をとろうとする意欲を高めるようにする。 	ワークシート
終末	4、指導者の話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の迷いや弱さに打ちかった喜び、誇りなどについて指導者の経験等を話し、自律的で責任のある行動をとろうとする心情を温めるようにする。 	